

# 経済・金融 フラッシュ

## 消費者物価(全国12年9月)

～コア CPI 上昇率は当面ゼロ近傍の推移が続く見込み

経済調査部門 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. コア CPI は5ヵ月連続のマイナス

総務省が10月26日に公表した消費者物価指数によると、12年9月の消費者物価(全国、生鮮食品を除く総合、以下コアCPI)は前年比▲0.1%(8月:同▲0.3%)と5ヵ月連続のマイナスとなったが、下落率は前月から0.2ポイント縮小した。事前の市場予想(QUICK集計:▲0.2%、当社予想は▲0.1%)を上回る結果であった。

食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合は前年比▲0.6%(8月:同▲0.5%)、総合は▲0.3%(8月:同▲0.4%)となった。

コアCPIの内訳をみると、ガス代(8月:前年比4.1%→9月:同3.4%)の上昇幅は縮小したが、ガソリン(8月:前年比▲6.0%→9月:同1.8%)、灯油(8月:前年比▲4.2%→9月:同1.4%)がいずれも4ヵ月ぶりの上昇となり、東京電力の電気料金引き上げの影響から、電気代(8月:前年比5.5%→9月:同7.3%)の上昇幅が拡大したため、エネルギー価格の上昇率は8月の前年比0.9%から同4.3%へと大きく拡大した。エネルギー価格がコアCPI上昇率を前月に比べ0.3ポイント押し上げた。

一方、プリンタ、外国パック旅行の下落幅拡大などから、教養娯楽の下落率が8月の前年比▲1.2%から同▲2.1%へと拡大し、コアCPI上昇率を0.1ポイント押し下げた。

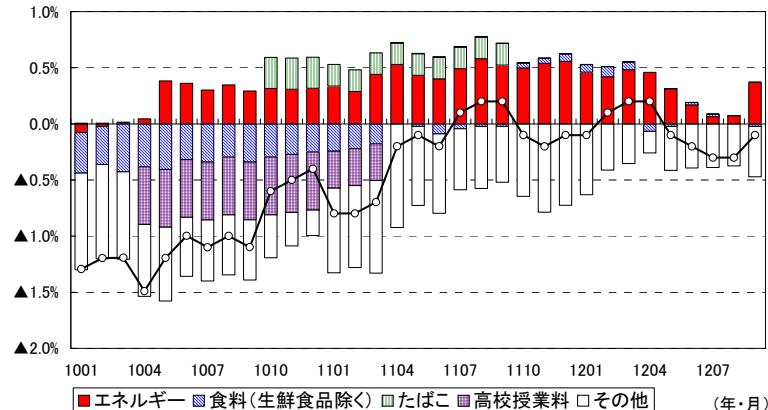
消費者物価指数の推移

(前年同月比、%)

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合	総 合	生鮮食品を除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合
11年 4月	▲0.4	▲0.2	▲1.1	▲0.7	▲0.5	▲1.0
5月	▲0.4	▲0.1	▲0.8	▲0.6	▲0.4	▲0.6
6月	▲0.4	▲0.2	▲0.8	▲0.6	▲0.4	▲0.7
7月	0.2	0.1	▲0.5	0.1	▲0.1	▲0.4
8月	0.2	0.2	▲0.5	▲0.2	▲0.2	▲0.6
9月	0.0	0.2	▲0.4	▲0.3	▲0.1	▲0.4
10月	▲0.2	▲0.1	▲1.0	▲0.5	▲0.4	▲1.0
11月	▲0.5	▲0.2	▲1.1	▲0.9	▲0.5	▲1.2
12月	▲0.2	▲0.1	▲1.1	▲0.4	▲0.3	▲1.1
12年 1月	0.1	▲0.1	▲0.9	▲0.2	▲0.4	▲1.1
2月	0.3	0.1	▲0.6	▲0.2	▲0.3	▲1.1
3月	0.5	0.2	▲0.5	▲0.1	▲0.3	▲1.0
4月	0.4	0.2	▲0.3	▲0.3	▲0.5	▲1.0
5月	0.2	▲0.1	▲0.6	▲0.5	▲0.8	▲1.3
6月	▲0.2	▲0.2	▲0.6	▲0.6	▲0.6	▲1.0
7月	▲0.4	▲0.3	▲0.6	▲0.8	▲0.6	▲1.0
8月	▲0.4	▲0.3	▲0.5	▲0.7	▲0.5	▲0.9
9月	▲0.3	▲0.1	▲0.6	▲0.7	▲0.4	▲1.1
10月	-	-	-	▲0.8	▲0.4	▲1.0

(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

消費者物価指数(生鮮食品除く、全国)の要因分解



(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

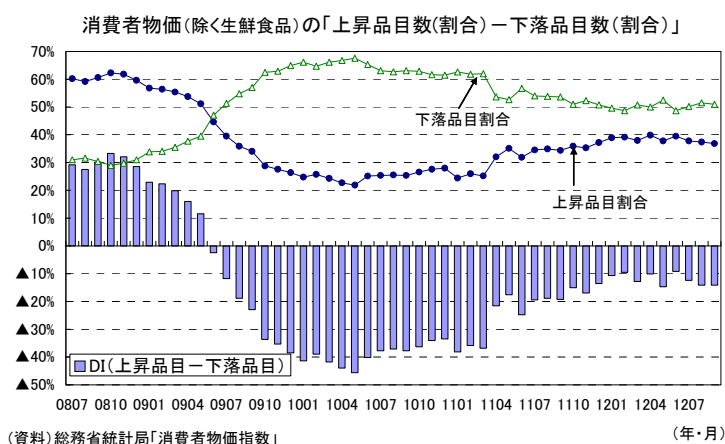
コア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が 0.37%（8 月は 0.07%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.02%（8 月は 0.00%）、その他が▲0.45%（8 月は▲0.37%）であった。

## 2. 物価下落品目数の割合が 3 ヶ月連続で 50%を上回る

消費者物価指数の調査対象 524 品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、9 月の上昇品目数は 193 品目（8 月 196 品目）、下落品目数は 267 品目（8 月は 270 品目）となった。

上昇品目数の割合は 36.8%（8 月は 37.4%）、下落品目数の割合は 51.0%（8 月は 51.5%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲14.1%（8 月は▲14.1%）であった。物価下落品目数の割合は 3 ヶ月連続で 50%を上回った。

コア CPI の下落率は 0.2 ポイント縮小したが、品目数で見れば前月までと状況は変わっていない。



## 3. コア CPI 上昇率はゼロ近傍の推移が続く見込み

12 年 10 月の東京都区部のコア CPI は前年比▲0.4%（9 月：同▲0.4%）となり、下落率は前月と変わらなかった。事前の市場予想（QUICK 集計：▲0.4%、当社予想は▲0.5%）通りの結果であった。

ガソリン（9 月：前年比 2.5%→10 月：同 3.4%）、灯油（9 月：前年比 2.6%→10 月：同 4.1%）の上昇幅は拡大したが、電気代（9 月：前年比 14.7%→10 月：同 12.9%）、ガス代（9 月：前年比 4.7%→10 月：同 3.1%）の上昇幅が縮小したため、エネルギー価格の上昇率は 9 月の前年比 9.4%から同 8.2%へと縮小した。

東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が 0.48%（9 月は 0.54%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.21%（9 月は▲0.15%）、その他が▲0.77%（9 月は▲0.80%）であった。

エネルギー価格は先行きも物価押し上げ要因となることが見込まれるが、ここにきて景気悪化が鮮明となっているため需給面からの下押し圧力が高まる可能性がある。コア CPI 上昇率は当面ゼロ近傍で推移することが予想される。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。